

1 旧本庄村 空襲犠牲者慰霊碑



基本情報

所 在：本庄墓地
住 所：兵庫県神戸市東灘区深江北町5-4
(阪神電車 深江駅 徒歩5分)
連 絡 先：不明
建 立 者：本庄共有墓地管理委員会、本庄地区有志
建 立 年：昭和52年5月11日

碑 文

【表】

旧本庄村 空襲犠牲者慰霊碑

【裏】

昭和二十年五月十一日、六月五日、八月六日の大空襲で、郷土防衛の村民四三六名の生命を奪われました。私たちは三十三回目の記念日に碑を建て、尊い犠牲者の冥福を祈り平和を誓います。

昭和五十二年五月十一日
本庄共有墓地管理委員会
本庄地区有志

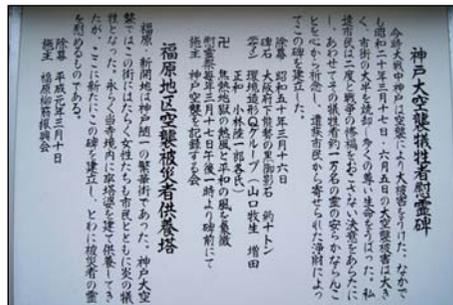
説 明 文

空襲犠牲者慰霊碑

旧本庄村が昭和二十年五月十一日、六月五日、八月六日の大空襲で大半が焦土と化し郷土防衛の村民四百三十六名の生命を奪われました。慰霊碑は三十三回目の記念日に尊い犠牲者の御冥福をお祈りし永久にお祭りするために建てました

昭和五十二年五月十一日
本庄共有墓地管理委員会

2 神戸大空襲犠牲者慰霊碑



基本情報

所 在： 葉仙寺
 住 所： 兵庫県神戸市兵庫区今出在家町4-1-14
 (JR・市営地下鉄 和田岬駅 徒歩10分)
 連絡先： 葉仙寺 078-671-1696
 建 立 者： 神戸空襲を記録する会
 建 立 年： 昭和50年3月16日

碑 文

一九四五年三月十七日
 神戸空襲戦歿者慰霊碑
 終戦三十周年記念建之
 終戦時神戸市長 中井一夫 書

神戸空襲を記録する会

説 明 文

今時大戦中神戸は空襲により大被害をうけた。なかでも昭和二十年三月十七日・六月五日の大空襲被害は大きく、市街の大半を焼却し多くの尊い生命をうばった。私達市民は二度と戦争の惨禍をおこさない決意をあらたにし、あわせてその犠牲者約一万名の霊の安らかならんことを心から祈念し、遺族市民から寄せられた浄財によってこの碑を建立した。

除幕 昭和五十年三月十六日
 碑石 大阪府下能勢の黒御影石 約十トン
 デザイン 環境造形Qグループ (山口牧生
 増田正和
 小林陸一郎各氏)
 (まんじ) 焦熱地獄の熱風と平和の風を象徴
 慰霊祭 毎年三月十七日午後一時より碑前にて

3 福原地区空襲被災者供養塔



基本情報

所 在： 粟仙寺
 住 所： 兵庫県神戸市兵庫区今出在家町4-1-14
 (JR・市営地下鉄 和田岬駅 徒歩10分)
 連絡先： 粟仙寺 078-671-1696
 建立者： 福原柳筋新興会
 建立年： 平成元年3月17日

碑 文

【表】

南無阿弥陀佛
 爲
 福原地区 空襲被災者
 有縁無縁各靈位追善増進菩提宝塔也

【右側面】

南無阿弥陀佛
 偈日
 六字名號一遍法 十界依正一遍体
 萬行離念一遍證 人中上々妙好華

【左側面】

南無阿弥陀佛
 經日
 神力演大光 普照無際土
 消除三垢冥 広濟衆厄難

【裏】

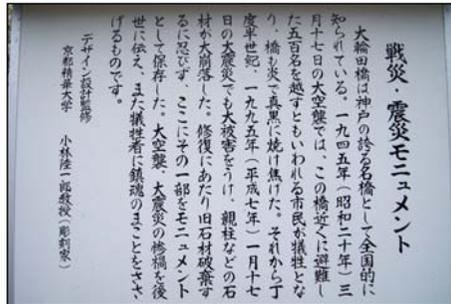
南無阿弥陀佛
 維持
 平成元年三月十七日施主福原柳筋新興会建之

説 明 文

福原・新開地は神戸随一の繁華街であった。神戸大空襲ではこの街にはたらく女性たちも市民とともに炎の犠牲となった。永らく当時境内に卒塔婆を建て供養してきたが、ここに新たにこの碑を建立し、とわに被災者の霊を慰めるものである。

除幕 平成元年三月十日
 施主 福原柳筋新興会

4 戦災・震災復旧モニュメント



基本情報

所 在： 粟仙寺
住 所： 兵庫県神戸市兵庫区今出在家町4-1-14
(JR・市営地下鉄 和田岬駅 徒歩10分)
連絡先： 粟仙寺 078-671-1696
建 立 者： 神戸市建設局
建 立 年： 平成10年10月

碑 文

1945. 3. 17

1995. 1. 17

説 明 文

【埋込】

大輪田橋炎・震災復旧モニュメント

1945年3月17日の神戸大空襲では、水を求め、大輪田橋に避難した多数の市民が、炎にまかれ犠牲になりました。この橋にはその時の炎で黒く焼け焦げた跡が、今も残っています。そして50年後の1995年1月17日の阪神・淡路大震災により、この橋自体の親柱が崩れ落ちる被害を受けました。

ここに、戦災と震災を経験した「生き証人」でもある、大輪田橋の石材をモニュメントとして再構成し、私たちの記憶に永くとどめるとともに、鎮魂の意を示すものです。

1998年10月

【案内板】

戦災・震災モニュメント

大輪田橋は神戸の誇る名橋として全国的に知られている。一九四五年（昭和二十年）三月十七日の大空襲では、この橋近くに避難した五百名を越すともいわれる市民が犠牲となり、橋も炎で真黒に焼け焦げた。それから丁度半世紀、一九九五年（平成七年）一月十七日の大震災でも大被害を受け、親柱などの石材が大崩落した。修復にあたり旧石材破棄するに忍びず、ここにその一部をモニュメントとして保存した。大空襲、大震災の惨禍を後世に伝え、また犠牲者に鎮魂のまことをささげるものです。

デザイン設計監修
京都精華大学 小林陸一郎教授（彫刻家）

5 神戸空襲犠牲者合同慰霊祭



※写真提供 神戸空襲を記録する会



開催概要 (平成23年度)

歳事名：神戸空襲犠牲者合同慰霊祭

会場：葉仙寺

(JR・市営地下鉄 和田岬駅 徒歩10分)

日時：平成23年3月17日(木) ※例年3月17日開催

参加者数：約150人

連絡先：神戸空襲を記録する会

式次第 (平成23年度)

1. 司会挨拶
2. 黙祷：葉仙寺住職の逝去(平成22年10月)、阪神・淡路大震災の犠牲者、東日本大震災の犠牲者/神戸空襲・戦災犠牲者を悼み黙祷
3. 読経
4. 主催者挨拶：昨年からの神戸市との交渉経緯の報告など <神戸空襲を記録する会 代表>
5. 会からの報告：会則の再確認と昨年度の決算とモニュメント建設準備委員会の立ち上げ
6. 体験談・感想：参加者の中から数名
7. 朗読：「ムツとわたし」 <あおぞらドラマカンパニー>
8. 合唱：組曲「火垂るの墓」、組曲「阪神・淡路大震災」その他 <神戸市役所センター合唱団>
9. 終わりの挨拶
10. 読経、焼香、献花

式辞 (平成23年度)

今年もこうして、皆さんの元気な顔にお会いすることができましたことをとてもうれしく思います。そして今年初めてここに来てくださった皆様、こんな寒い中をお集まりいただいて本当にありがとうございます。

昨年の慰霊祭以後、一年間の間に私達の会には嬉しいことがありました。神戸市が、私たちが進めてきました空襲で亡くなった方のお名前を集めるという事業に関心を示してくださいました。

たまたま去年は戦後65年の年でした。私達の会にとって記念すべき年となりました。一步神戸市が前進してくださった。ただ私たちが願っていることと、神戸市が協力してくれようとしていることには大きな隔りがあります。とにかく関心を示していただいたことに感謝して、少しでも私たちの願いに近づいていただくように、私たちみんなで粘り強く交渉を続けていこうと思います。

このように、戦後66年も経った今年も神戸空襲犠牲者合同慰霊祭に、席もないほどに集まってくださったみなさま方の想いに後押しされて、夢の実現に向けていきたいと思えます。

どうぞ今日半日、自然災害でもない、紛れも無い人災・戦争という悲しい出来事の為に命を奪われた人たちに想いを寄せていただき、共に世界の平和を祈りたいと思えます。

神戸空襲を記録する会 代表

6 大輪田橋戦災・震災復旧モニュメント



基本情報

所 在：大輪田橋（兵庫運河）
 住 所：兵庫県神戸市兵庫区中之島2
 （JR・市営地下鉄 和田岬駅 徒歩13分）
 連絡先：都合により記載せず
 建 立 者：神戸市建設局
 建 立 年：平成10年10月

説明文

大輪田橋戦災・震災復旧モニュメント

平清盛公ゆかりの地名にちなむこの大輪田橋は、1924年の竣工以来、二度の大きな災害に遭っています。1945年3月17日の神戸大空襲では、水を求め、この橋に避難した多数の市民が、炎にまかれ犠牲になりました。橋にはその時の炎で黒く焼け焦げた跡が、今も残っています。そして50年後の1995年1月17日の阪神・淡路大震災により、この橋自体の親柱が崩れ落ちる被害を受けました。ここに、戦災と震災を経験した「生き証人」でもある親柱をモニュメントとして再構成し、その時節の冬の星座をかたどった照明によって、私たちの記憶に永くとどめるとともに、鎮魂の意を示すものです。

1998年10月
 神戸市

大輪田橋戦災・震災復旧モニュメント

1945年3月17日の神戸大空襲では、水を求め、大輪田橋に避難した多数の市民が、炎にまかれ犠牲になりました。この橋にはその時の炎で黒く焼け焦げた跡が、今も残っています。そして50年後の1995年1月17日の阪神・淡路大震災により、この橋自体の親柱が崩れ落ちる被害を受けました。ここに、戦災と震災を経験した「生き証人」でもある、大輪田橋の石材をモニュメントとして再構成し、私たちの記憶に永くとどめるとともに、鎮魂の意を示すものです。

1998年10月

7 戦災殉難者慰霊碑



基本情報

所在：大輪田橋 東たもと
住所：兵庫県神戸市兵庫区中之島2
(JR・市営地下鉄 和田岬駅 徒歩13分)
連絡先：都合により記載せず
建立者：出在家町協議会
建立年：昭和22年9月(平成8年10月 再建)

碑文

【表】

戦災殉難者慰霊碑

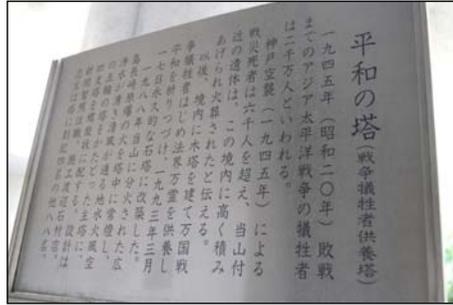
【裏】

昭和二十二年九月建之

出在家町協議会

平成八年十月再建

8 神戸空襲犠牲者之霊供養塔



基本情報

所 在： 妙法華院
 住 所： 兵庫県神戸市兵庫区永沢町4-5-8
 (阪神電車・阪急電鉄・神戸電鉄 新開地駅 徒歩1分)
 連絡先： 妙法華院 078-575-2608
 建立者： 妙法華院
 建立年： 平成5年3月17日

碑 文

【右前塔・表】

神戸空襲犠牲者之霊供養塔

説 明 文

平和の塔 (戦争犠牲者供養塔)

一九四五年 (昭和二十年) 敗戦までのアジア太平洋戦争の犠牲者は二千万人といわれる。

神戸空襲 (一九四五年) による戦災死者は六千人を超え、当山付近の遺体は、この境内に高く積みあげられ火葬されたと伝える。

以後、境内に木塔を建て万国戦争犠牲者はじめ法界万壺を供養し平和を祈りつづけ、一九九三年三月一七日永久的な石塔に改築した。

一九八八年当山に分火された広島長崎原爆の火を塔内に常燈し、浄水が湧き清風が通る地下水風空の五輪の塔をかたどった主塔に、四支塔を螺旋状に配する。設計は新聞智照住職。施工渡辺石材店。志主は塔に刻記四名の他八八名。

戦災の石碑と石燈籠

一九四五年 (昭和二十年) 三月十七日の神戸空襲で当山は全焼した。この石碑は焼夷弾 (しょういだん) の直撃を受け、さらに本堂庫裡等全焼の猛火につつまれ、上部が欠け、もろくなっている。石碑前にあった石燈籠 (今は移して堀ぎわにある) も刀で削いだように笠が割れている。戦争を証言する記念物として、そのまま残している。

かたわらのクスノキは焼け株だけが残っていたのが、根が生きていて翌年芽をふき、戦後ここまで成長した。

9 五人の乙女の慰霊碑



基本情報

所 在 : 柳原天神社
 住 所 : 兵庫県神戸市兵庫区東柳原町1-12
 (JR兵庫駅 徒歩8分)
 連絡先 : 柳原天神社 078-651-1283
 建 立 者 : 日本電信電話株式会社
 建 立 年 : 平成2年8月

碑 文

慰霊

(故人名)

昭和20年3月17日未明の空襲により、この地において戦に殉じた神戸中央電話局兵庫分局職員の霊をまつる。

なお、このレリーフは神戸中央電話局兵庫分局の壁面に取付けられていたもので大正11年頃、当時の分離派建築会の作といわれており大正ロマンチズムの薫りを今に伝えている。

建立 平成2年8月

日本電信電話株式会社

神戸支店長 小出美孝

10 慰霊碑



基本情報

所在：小野八幡神社
 住所：兵庫県神戸市中央区八幡通4-1-37
 (市営地下鉄 三宮・花時計前駅 徒歩3分、神戸新交通 貿易センター駅 徒歩3分、JR三ノ宮駅 徒歩7分、阪急電鉄・阪神電車・市営地下鉄 三宮駅 徒歩8分)
 連絡先：小野八幡神社 078-221-5414
 建立者：日本電信電話公社
 建立年：不明 (平成7年以降に神社に移される)

碑文

慰霊

日本電信電話公社 総裁 米澤 滋 書

(故人名)

昭和20年3月17日未明の空襲により

この地において歿に殉じた神戸中央

電話局管合分局職員の霊をまつる



11 戦災者供養塔



基本情報

所 在：神戸市立須磨離宮公園
 住 所：兵庫県神戸市須磨区東須磨1-1
 (山陽電車 月見山駅・須磨寺駅 徒歩10分)
 連絡先：神戸市立須磨離宮公園 078-732-6688
 建立者：神戸市
 建立年：平成23年10月

碑文

【表】

戦災者供養塔

【裏】

一九四五年、第二次世界大戦中の神戸大空襲では、この近辺でも多くの市民が犠牲になりました。当時この地には武庫離宮がありましたが、その近くに住まわれていた日本山の尼僧小川行相さんが、犠牲者を火葬され、戦後この地にて永遠の世界平和を願い、南無妙法蓮華経と彫られた供養塔を建立されました。一九九五年一月一七日の阪神淡路大震災で供養塔は倒壊しましたが、戦災にて犠牲になられた方の慰霊と記録を後世に残すため、この供養塔を設置いたしました。

二〇一一年十月吉日

12 姫路市戦没者追悼式



※写真提供 姫路市

開催概要 (平成23年度)

歳事名：姫路市戦没者追悼式 ※一般戦災死没者を含む
 会場：姫路市市民会館 大ホール
 (JR姫路駅・山陽電車 山陽姫路駅 徒歩15分)
 日時：平成23年8月15日(月) ※例年8月15日開催
 参列者数：約750人
 連絡先：姫路市遺徳顕彰会(事務局 姫路市福祉総務課内) 079-221-2303 (直通)

式次第 (平成23年度)

1. 開式
2. 国歌斉唱
3. 黙とう：黙とう、天皇陛下のおことば ～「全国戦没者追悼式の実況放送」～
4. 式辞：姫路市遺徳顕彰会会長
5. 追悼の辞：姫路市議会議長、兵庫県知事、兵庫県遺族会姫路支部長
6. 献花
7. 閉式

式辞 (平成23年度)

(略)

先の大戦が終わりを告げ、早くも66年の歳月が過ぎ去りました。
 苛烈を極めた、あの戦いの中で、祖国の安泰を願い、故郷に残した愛しい家族を案じつつ、戦地に赴き、戦禍に倒れ、再び郷土にまみえず、散華された戦没者の方々や、何ら抵抗の術もなく、空襲のため尊い犠牲となられた方々のご心情に思いを馳せ、最愛の肉親を失われた、ご遺族の深い悲しみと、戦後の長いご労苦を思うとき、今なお、深い悲しみが胸に迫ってまいります。ここに、心から哀悼の意を表します。

(中略)

私たちは、過去を謙虚に振り返り、戦争の惨禍と平和の尊さを、幾世代にもわたって継承するとともに、平和で希望に満ちた共生の社会を建設していくことが、私たちに課せられた重大な責務であり、犠牲者となられた方々の御霊をお慰めすることになるものと確信いたします。

本日の式典にあたり、先の大戦から学びとった多くの教訓を、改めて深く心に刻み、市民の皆様とともに、姫路の更なる発展を目指して、一層精進することをお誓い申し上げますとともに、御霊の安らかならんことと、ご遺族の今後のご平安とご健勝を心からお祈り申し上げまして、式辞といたします。

平成23年8月15日
 姫路市遺徳顕彰会 会長 石見 利勝
 ※一部抜粋

13 空爆の碑



基本情報

所 在 : JR京口駅前ロータリー
 住 所 : 兵庫県姫路市城東町字北神屋418-2
 (JR京口駅 徒歩1分)
 連絡先 : 都合により記載せず
 建立者 : 城東地区連合自治会
 建立年 : 平成9年3月

碑 文

空爆の碑

この地は川西航空機姫路製作所跡地である。昭和二〇年（一九四五）六月二日午前十時三〇分頃、米国B二九爆撃機九機の空爆により一瞬に焦土、死礫の山と化した。川西航空七四名、周辺住民六七名、等三四一名の死者、行方不明一〇名重軽傷三五〇名、罹災者一〇、二二〇名の被害を受けた。又同年七月三日深夜焼夷弾による姫路大空襲により死者一七三名行方不明四名、重軽傷一六〇名、罹災者四五、一八二名の被害を受け市内が焦土と化した。尚当時の人口は一〇七、六四三名であった。私たちは犠牲者の霊を慰めると共に人命の尊厳と平和を希求し、戦争が地球上からなくなる事を心に念じ平成八年中核都市指定を記念してこれを建立する。

平成九年（一九九七）三月
 城東地区連合自治会

14 平和塔



基本情報

所 在：西長洲八幡神社
住 所：兵庫県尼崎市西長洲町2-15-8
(JR尼崎駅 徒歩13分)
連 絡 先：西長洲八幡神社 06-6429-2830
建 立 者：西長洲六人会
建 立 年：昭和37年8月15日

碑 文

【表】

平和塔

【裏】

昭和二十年六月一日第二次世界大戦ノ折
西長洲一帯焼土ト化シ三百余名ノ犠牲者
ヲ出(俗字)シタ之等ノ霊ヲ慰メル爲此處ニ平和
ノ塔ヲ建設ス
昭和三十七年八月十五日

【台座】

発起人
(個人名)
後援
尼崎市

説 明 文

平和塔建立の由来

太平洋戦争末期 昭和二十年六月一日午前十時
尼崎市西長洲地区空爆死没者三百余柱の御霊を
始め大東亜戦争に於いて戦死され靖国の神として
祭祀されている十九柱の御霊を此の平和塔に鎮め
西長洲の里の平和の守護として建立す
昭和三十七年八月十五日 西長洲 六人会
慰霊祭 六月一日

15 明石市戦没者戦災死没者追悼式



※写真提供 明石市

開催概要 (平成23年度)

歳事名：明石市戦没者戦災死没者追悼式
 会場：明石市立市民会館 中ホール
 (JR明石駅 徒歩10分)
 日時：平成23年10月19日(水) ※例年10月中～下旬開催
 参加者数：149人
 連絡先：明石市 福祉部 福祉総務課 078-918-5025 (直通)

式次第 (平成23年度)

1. 開 式
2. 国 歌 斉 唱
3. 黙 と う
4. 追 悼 の こ と ば：明石市長
5. みたまに捧げることば：明石市議会議長、兵庫県遺族会明石支部長、兵庫県知事、兵庫県遺族会会長
6. 献 茶：兵庫県遺族会明石支部婦人部長
7. 献 花：明石市長、来賓、遺族・一般
8. 吟詠「九段の桜」
9. 勇士をとむらう歌斉唱
10. 謝 辞：兵庫県遺族会明石支部二見分会長
11. 閉 式

式 辞 (平成23年度)

追悼の言葉

本日、ここに、「明石市戦没者・戦災死没者追悼式」を執り行うに当たり、戦没者・戦災死没者の皆様の御霊の前に、謹んで追悼の言葉を捧げます。

時の流れは早く、先の大戦が終わりを受けてから66年の歳月が過ぎました。我が国においては、時の経過とともに、悲惨な戦争の記憶が薄れつつあると言われておりますが、今日のこの平和は、多くの尊い犠牲のもとに築かれたものであることを忘れてはなりません。

先の大戦のなかで、多くの方々が、ただひたすら祖国の繁栄と家族の安泰を願いつつ、その尊い命を捧げられました。ここに、戦争によって志半ばで命を落とされた方々に対し、心からご冥福をお祈り申し上げるとともに、敬意と感謝の誠を捧げます。

また、ご遺族におかれましては、最愛の肉親を失われた深い悲しみを胸に、幾多の困難を乗り越えてこられたことと存じます。その計り知れないご努力に対し、深甚なる敬意を表します。

あれから今日にいたるまで、わが国は直接戦火を体験することなく、平和と繁栄を享受してまいりました。

この平和を永続させるため、明石市におきましては、核廃絶を訴える世界約4,800都市の首長で構成する「平和市長会議」に本年8月1日付で加盟いたしました。当会議への加盟を機に、今後とも真に平和を希求する都市として、人類の繁栄と福祉の向上のための取り組みを続けていくことを、お誓い申し上げます。

一方、本年3月に未曾有の巨大地震が東北地方を襲い、数多くの方々が犠牲になられました。また、東北各県の沿岸の街は壊滅的な被害を受け、今なお被災地では、過酷な状況が続いております。

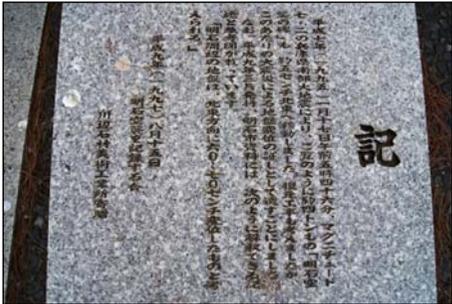
この国難ともいべき事態を、国民が一つになって乗り越えていかなければならないことは、先の大戦後、国民が力を合わせて復興に取り組んできた姿がよく示しているところであります。

今後も、だれもが安全安心に暮らせる社会を実現していくことこそ、平和を願い続けてこられた先人たちのご遺志に応えるための道だと信じ、市民の皆様が安全で安心して暮らし続けられるよう、誠心誠意取り組んでまいりますことを、固くお誓い申し上げます。

ここに謹んで御霊のご冥福をお祈り申し上げ、郷土の繁栄と市民の平安にご加護を賜らんことを願い、あわせて、ご参加の皆様のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げまして、追悼のことばとさせていただきます。

平成23年10月19日
 明石市長 泉 房穂

16 明石空襲の碑



基本情報

所 在：明石公園内 兵庫県立図書館 脇
 住 所：兵庫県明石市明石公園1-27
 (JR明石駅・山陽電車 山陽明石駅 徒歩5分)
 連絡先：都合により記載せず
 建 立 者：明石空襲の碑をつくる会
 建 立 年：昭和60年8月15日

碑 文

【表】

明石空襲の碑

【表】

1985. 8. 15 建立
 製作 明石空襲の碑をつくる会
 デザイン 丹下寿一
 施工 川辺石材美術工業所

説 明 文

明石の空襲 (明石空襲の碑をつくる会調べ)

回	年月日	時刻	機数	投弾個数	被爆地域	死者
1	20.1.19	13:51	8	250キロ	川崎航空機工場	263
		13:55	8	爆弾ほか	大蔵・小久保	69
		14:05	17	531	船上・林・玉津	
		14:10	30		大久保ほか	
2	20.6.9	9:54	9	2トン	明石公園	269
		9:55	9	爆弾ほか	上ノ丸・太寺	373
		9:56	7	60	川航東南船上	
3	20.6.22			500キロ	川航・林・宮ノ下	25
				爆弾ほか	門田・高石 和坂・鳥羽	
4	20.6.26	9:51			公園前・鷹匠町	142
		9:56		69	三番町ほか	
5	20.7.7	0:15	1~2	油脂焼夷	市街地の	355
		1:35	機ずつ 連続	弾約7万	63%焼失	
6	20.7.28		3	250キロ2	明石川水道管橋	
						死者計 1496

記

平成七年（一九九五）一月十七日午前五時四十六分、マグニチュード七・二の兵庫県南部大地震により、ご覧のように約四トンもの「明石空襲の碑」も、約五センチ北東に移動しました。復元工事も考えましたが、このあたりの大震災による地盤変異の証しとして遺すことにしました。

なお、平成九年三月発行、明石市資料には、次のように解釈できる記述と参考図が載っています。

「明石周辺の地盤は、北東方向に六〇～七〇センチ変位したものと考えられる。」

平成九年（一九九七）八月十五日
 明石空襲を記録する会
 川辺石材美術工業所寄贈

17 太平洋戦争明石市被爆 犠牲者無縁之慰霊塔



基本情報

所 在：大聖寺
 住 所：兵庫県明石市上ノ丸1-18-18
 (JR明石駅・山陽電車 山陽明石駅 徒歩10分)
 連絡先：大聖寺 078-912-5929
 建 立 者：大聖寺
 建 立 年：昭和49年6月9日

碑 文

太平洋戦争明石市被爆 犠牲者無縁之慰霊塔

18 慰霊塔供養祭



※写真提供 大聖寺

開催概要 (平成23年度)

歳 事 名：慰霊塔供養祭
 会 場：大聖寺
 (JR明石駅・山陽電車 山陽明石駅 徒歩10分)
 日 時：平成23年6月4日(土) ※例年6月4日前後の日曜日開催
 参 列 者 数：10人
 連 絡 先：大聖寺 078-912-5929

概 要

第二次世界大戦と大聖寺

大戦中、明石には「飛燕」という名の戦闘機を作っていた川崎航空機株式会社(現在の川崎重工株式会社)の工場があり、それは「ゼロ戦」と並び称される日本空軍の戦闘機でした。
 その戦闘機を作るために関西一円から「学徒動員」と呼ばれる少年少女が集められていて、21世日成上人は彼らを訓戒するという縁がありました。明石はその工場があったために、昭和20年1月19日、大阪より神戸より早く空襲を受け、従業員をはじめ大勢の学徒が亡くなりました。川崎航空は住職との縁が元で当時「三國寺」と称していた大聖寺の境内に慰霊碑を建て、その内側には明石市が建てた慰霊碑があるという、珍しい二重霊があります。
 昭和49年6月9日、22世日康上人は、その後何度も空襲にあつて無縁仏になった霊も含めての供養と、世界平和を願って慰霊塔を建てようと発願しました。
 明石の町を印刷大鼓を打ちならし歩いてその霊を慰め、川崎重工と明石の一般市民と電信徒が一致協力して、高さ5.5メートルの「太平洋戦争明石市被爆犠牲者慰霊塔」が完成したのです。
 この塔の上に安置されているのが、青銅製の十一面観音像です。

川崎航空機工場
 従業員戦災殉職の精霊
 学徒動員戦災殉職の精霊
 挺身隊員殉死犠牲者の精霊 十六童
 小野高等女学院等 学徒動員殉死犠牲者ノ精霊
 和歌山田辺高等家政女学院 学徒動員殉死犠牲者十一童

明石工場内
 男性一六二名 女性一〇一名 計二六三 童の精霊住

工場外
 六九童住

総計三三二童住
 川崎重工工場明石工場内殉職犠牲者 二五童住

明石工場 発動機工場 機体工場
 防毒兵器工場の三工場の合計三八〇〇〇人従業員 五〇校余りの約一万人の学徒が動く
 合計 四万八千人

十一面観音は頭に11の小面を持つ観音様で、人々の悲しみ・苦しみ・悩みなどを救う現世利益の本尊として親しまれています。頭の周りに菩薩面が10体あり、前3面は慈悲の相。左3面は瞋怒(しんぬ)の相。左3面は白牙上出租。後ろの1面は暴悪大笑相といひ、頂上の仏面は仏会を現してあります。

左手には蓮の華をさした蓋を持ち、右手には日蓮宗の数珠を持つという珍しい像であります。(普通は、てのひらを前面向けた印相をとっている)この慰霊塔は阪神淡路大震災でもびくともしませんでした。建設当時観音像を倒した所は「震度5位でも大丈夫ですから、上に乗せておくだけ良いですよ」といわれましたが、建設会社は「もし何かがあったら大変だ」ということで、しっかりと太いボルトで観音様を安置しました。そのおかげで観音様は倒れることもなくすみしました。建立しようとした人の心と、作る人の心と、拝む人の心がこの慰霊塔を震災から護ってくれたのでしょうか。

毎年、1月19日には川崎重工関係者の慰霊祭が行われ、午後1時56分の空襲の時間には、遺族の方々と1分間の黙祷が捧げられ6月9日前後の日曜日に「慰霊塔供養祭」が行われています。戦争の悲惨と、戦争を憎む心を、後の時代まで語り継ぐことが大聖寺の使命だと思っております。

出典：大聖寺 解説文

19 戦災死者精霊碑



基本情報

所 在：大聖寺
 住 所：兵庫県明石市上ノ丸1-18-18
 (JR明石駅・山陽電車 山陽明石駅 徒歩10分)
 連絡先：大聖寺 078-912-5929
 建立者：明石市
 建立年：昭和21年春

碑 文

昭和二十一年春彼岸

戦災死者精霊碑

明石市建之



20 「川崎航空機 明石工場」の慰霊塔



基本情報

所 在 : 大聖寺
 住 所 : 兵庫県明石市上ノ丸1-18-18
 (JR明石駅・山陽電車 山陽明石駅 徒歩10分)
 連絡先 : 大聖寺 078-912-5929
 建立者 : 川崎航空機 (現 川崎重工業)
 建立年 : 昭和34年

碑 文

【表】

十方法界萬靈

【左側面】

願は此功德を以て 普く一切に及し
 我等と衆生と 皆共に佛道を成せん

【裏】

川崎航空機工業株式会社建之

【右側面】

三國寺日成代
 昭和三十四年満十三回忌之聖日建之
 資 太平洋戦犠牲諸精霊 追善菩提

21 川崎重工業慰霊祭



※写真提供 大聖寺

開催概要 (平成23年度)

歳事名 : 川崎重工業慰霊祭
 会 場 : 大聖寺
 (JR明石駅・山陽電車 山陽明石駅 徒歩10分)
 日 時 : 平成23年1月19日(水) ※例年1月19日開催
 参列者数 : 3人
 連絡先 : 大聖寺 078-912-5929

式次第 (平成23年度)

1. 開 会
2. 黙 禱
3. 読経、御回向
4. 閉 会

概 要

昭和20年1月19日 川崎航空機明石工場空爆犠牲者、慰霊供養、
 平成23年度 第67回忌追善慰霊供養の為、並びに明石工場殉職者
 慰霊供養の為(25霊)

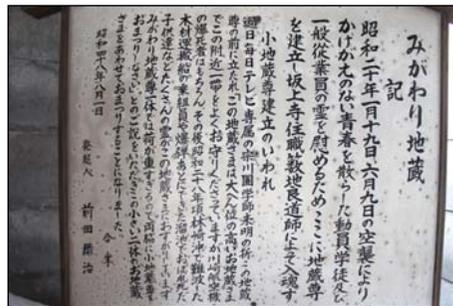
昭和二十年一月十九日 午後一時五十三分、明石川崎航空機工場空爆
 B29 爆撃機 8機 53分 第一波
 B29 爆撃機 8機 55分 第二波
 B29 爆撃機 17機 2時 5分 第三波
 B29 爆撃機 30機 2時10分 第四波

B29 爆撃機 計 63機 250K爆弾531個

明石工場内戦災殉職犠牲者
 男性 一六二名 女性 一〇一名 計二六三名
 明石工場外にて 六九名 総計三三二名死亡

出典 : 大聖寺 解説文

22 みがわり地藏尊



基本情報

所 在：川崎重工業明石工場 横
住 所：兵庫県明石市川崎町1-1
(山陽電車 林崎松江海岸駅 徒歩5分)
連 絡 先：貴崎青年クラブ 個人であり記載せず
建 立 者：個人であり記載せず
建 立 年：昭和48年8月1日

碑 文

みがわり

地藏尊

説 明 文

みがわり地藏

記

昭和二十年一月十九日、六月九日の空襲により
かけがえのない青春を散らした動員学徒及び
一般従業員の霊を慰めるためここに地藏尊
を建立し坂上寺住職敏地良道師によって入魂す。

小地藏尊建立のいわれ

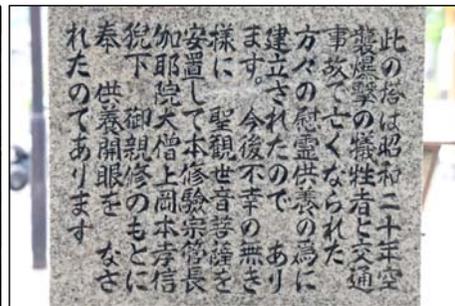
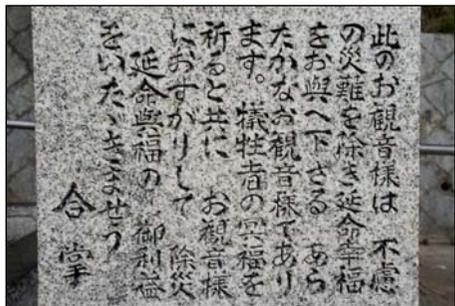
過日毎日テレビ専属の宗川園学師未明の折この地藏
尊の前に立たれ「この地藏さまは大へん位の高いお地藏さま
でこの附近一帯をよくお守りくださっていますが川崎航空機
の爆死者はもちろん、その後昭和二十八年頃林崎沖で難破した
木材運搬船の乗組員や爆弾あとにできた溜池でおぼれ死原死
子供達などたくさんのお地藏さまにおすがりしています
みがわり地藏尊一体では荷が重すぎるので両脇に小地藏尊を
おまつりしなさい」とのご説をいただきこの小さい二体のお地藏
さまをあわせておまつりすることになりました。

合掌

昭和四十八年八月一日

発起人 (個人名)

23 西宮市戦災・交通犠牲者供養之塔



基本情報

所 在：満池谷墓地
 住 所：兵庫県西宮市奥畑6-69
 (阪急電鉄 苦楽園口駅 徒歩15分)
 連絡先：都合により記載せず
 建 立 者：西宮中央観音会
 建 立 年：昭和53年2月8日

碑 文

【表】

西宮市 戦災 交通 犠牲者供養之塔
 西宮市長 奥五一書

【右側面】

西宮中央観音会 会長黒崎晴雄建之
 西宮市今津水波町二ノ八

【左側面】

昭和五十三年二月八日

【裏】

奉 開眼供養
 本修験宗管長伽耶院
 大僧正 岡本孝信

説 明 文

【表】

此のお観音様は 不慮の災難を除き延命幸福をお興へ下さる あらたかなお観音様であります。犠牲者の冥福を祈ると共に お観音様におすがりして 除災延命興福の 御利益をいただきませう
 合掌

【裏】

此の塔は昭和二十年空襲爆撃の犠牲者と交通事故で亡くなられた方々の慰霊供養の爲に建立されたので あります。今後不幸の無き様に 聖観世音菩薩を安置して本修験宗管長伽耶院大僧上岡本孝信 猊下 御親修のもとに 奉 供養開眼を なされたのであります

24 芦屋市戦没者合同追悼式



※写真提供 芦屋市（写真は平成22年度のもの）

開催概要（平成22年度）

歳事名：芦屋市戦没者合同追悼式 ※一般戦災死没者を含む
 会場：芦屋市福祉センター 多目的ホール
 （JR・阪神電車 芦屋駅 徒歩15分）
 日時：平成22年10月22日（金） ※5年毎 秋季に開催
 参加者数：約110人
 連絡先：芦屋市 保健福祉部 地域福祉課 0797-31-2121（代表）

式次第（平成22年度）

1. 御 霊 入 場
2. 黙 禱
3. 国 歌 斉 唱
4. 追 悼 式 辞
5. 追 悼 の こと ば
6. 献 花
7. 追 悼 奉 唱
8. 謝 辞
9. 御 霊 退 場

式 辞（平成22年度）

本日ここに、戦没者八百二十九柱、戦死死没者七十六柱、海外引揚物故者四十三柱の御霊をお迎えし、御遺族を始め関係者多数の御参列をいただき、戦没者合同追悼式を執り行うにあたり、芦屋市を代表して、謹んで追悼のことばを申し上げます。

あの惨烈を極めた先の大戦が終わりを告げてから、早や六十五年が過ぎ去りました。

祖国の安泰を願い、家族を案じつつ、戦場に散り、戦禍に倒れ、あるいは終戦後、遠い異国の地に斃れ、また、祖国を前に力尽き亡くなられた方々に思いを馳せるとき、愛惜の念は新たなるものが興ってまいります。

ここに、戦没者の皆様のご冥福を心からお祈り申し上げます。

また、最愛の肉親を失い、深い悲しみに耐えながら長い苦難の道を歩んでこられましたご遺族の皆様のご心情をお察しいたしますと、今なお痛恨の情が胸に迫ってまいります。

戦後、わが国は国際協調を国是として、あの廃墟の中から立ち上がり、幾多の困難を乗り越えてまいりました。

芦屋市においても、市民の皆様の叡智と懸命の努力により、戦災から目覚ましい復興を遂げて参りましたが、その礎には、戦没者の皆様の重く尊い犠牲があり、先人の弛まぬ努力があることを私たちは決して忘れてはなりません。

大戦後の国際社会において、私たちは世界の平和を求めるとさまざまな努力を積み重ねてまいりました。そして、二十一世紀こそは平和の世紀となることを、世界の人々が望んでいるにもかかわらず、近年の国際情勢を見ますと世界各地で紛争やテロが続き、貧困と病苦に苦しむたくさんの方々があり、予断を許さない状況が続いております。

このような中、国民の大半が戦争の戦禍を知らない世代となった今日こそ、あの戦争の悲惨な記憶を風化させることなく、命の尊さ、平和の大切さを語り継ぎ、恒久平和を築いていく努力を、私たちは積み重ねていかねばなりません。

最後になりましたが、戦没者の皆様の御霊に感謝申し上げますとともに、とこしえに安らかならんことを念じ、心からご冥福をお祈り申し上げます。

今後も残されたご遺族の皆様方のご繁栄と恒久平和の実現のため、私たちを見守り続けていただきますようお願い申し上げます。

ご遺族の皆様、そしてご参列いただきました皆様方のますますのご健勝とご多幸を祈念いたしまして、追悼のことばとさせていただきます。

平成二十二年十月二十二日
 芦屋市長 山中 健

25 太平洋戦争空爆殉難者之墓



基本情報

所在：芦屋市立霊園墓地
住所：兵庫県芦屋市朝日ヶ丘町37-17
(JR・阪神電車 芦屋駅、阪急電鉄 芦屋川駅より 阪急バス「霊園前」下車)
連絡先：芦屋市 保健福祉部 地域福祉課 0797-31-2121 (代表)
建立者：芦屋市戦災死没者遺族会
建立年：昭和45年7月

碑文

【表】

太平洋戦争空爆殉難者之墓
(故人名)
昭和45年7月吉日 芦屋市戦災死没者遺族会建之

【裏】

建立発起人
(個人名)

説明文

【表】

あの苦しかった又悲しかった
戦争体験は絶対に風化
させてはなりません

【裏】

平成五年八月吉日
芦屋市戦災死没者遺族会建之